

テレホン法話

今年も本山の報恩講のお勤めが終わり、12月は各地元のお寺さんでの報恩講が多くなされているのではないのでしょうか。そして年末になると、近くのお寺さんで除夜の鐘を突きに行つて、新年を迎える方も多いかと思います。

ところでこの除夜の鐘とはいったいどういったことなのかといいますと、ご存知の方も多いと思いますが、大晦日の夜から年を跨いで108回たたかれる鐘の事です。この108回という回数には諸説が有ります。人間の煩悩の数を表しているというのがよく聞かれます。年の終わりに当たり、鐘突くことによって煩悩を払い、新しい気持ちで新年を迎えるというのが一般的にとらえかたではないのでしょうか。

しかし煩悩を払うということは本当に出来るのでしょうか。きれいな心になろうと思っても、煩悩尽きることなく湧き上がってくるのではないのでしょうか。

親鸞聖人は、正信偈の中に「不断煩悩得涅槃」と書かれています。煩悩を絶たなくても阿弥陀仏の本願力によって往生出来るということだと思えます。

それは、欲も多く怒りや妬む心が絶えない私達人間、すなわち凡人は自らの計らいで煩悩を絶つことは出来ないということの自覚を促すとともにそんな私達を救ってくださるのは、阿弥陀仏のみということを表しているのだと思えます。

今年の年末は鐘を突きに来られた際にそのことに思いをめぐらして、ぜひ本堂でもお念仏合掌もして行って頂きたいと思えます。